



令和2年12月23日

神奈川県知事 黒岩 祐治 様

神奈川県市長会

会長 本村 賢太郎



年末年始の期間における県内の医療体制等に係る意見について

新型コロナウイルスの新規陽性患者が急増し医療提供体制の厳しい状況が続いている中で、年末年始の期間が目前となっている今般、期間中の対応や今後の医療提供体制等について意見を取りまとめましたので、お伝えします。

知事におかれては、県民の命を守るために日夜対応に当たられていることは本会としても承知しているところですが、各市の声をお聴き取りいただきますようお願いいたします。

I 年末年始における医療体制に関して

- 1 神奈川県が設置する「発熱等診療予約センター」及び「感染症専用ダイヤル」による対応の体制強化と県民への情報提供が必要である。
- 2 期間中の診療を呼び掛けるとともに、休日夜間の診療に対する支援や診療している医療機関についての情報提供を行う必要がある。
- 3 日曜、休日には医療機関から電話で陽性の連絡は来るものの、発生届（HER-SYS 入力）が提出されないため翌日まで患者対応ができないことがあるので、柔軟に疫学調査や患者対応が開始できるように国に働きかけることが必要である。
- 4 診療する医療機関における医師や看護師等の人件費や備品・消耗品等への補助が必要である。
- 5 無症状者や軽症者を引き受けるホテル等の療養施設に関する緊急連絡体制を構築する必要がある。

II 新型コロナウイルス新規陽性患者急増下の今後の対応に関して

- 1 医療機関の経営悪化に対する継続的な財政支援や医療従事者のストレスケアとモチベーション維持の手立てを講じる必要がある。
- 2 ホテル等の療養施設への入所については、感染拡大の防止や本人の病状などを考慮して行う保健所医師の判断が尊重される必要がある。
- 3 PCR 検査については、安価で随時に受けられる体制を整えるとともに、住所地に限らず勤務地の保健所等でも受けられるようにする必要がある。
- 4 PCR 検査の受検者数や陽性者数、感染者に関する入退院、施設療養、完治などの情報が市町村や地域の医師会へも適宜提供される必要がある。
- 5 感染者が累計で公表されていることが市民に不安をあたえている面があるので、公表時点における市町村単位の感染者数を治癒した方を除いた数値で情報提供することを検討する必要がある。

- 6 ワクチン接種の体制を整えるに際して、今後求められる対応を早めに示すことをはじめ県のサポートが必要である。
- 7 県内の「診療・検査医療機関」の指定に地域による偏りが無いよう配慮する必要がある。
- 8 地域の中核的な公立病院等が高度医療機関としての本来の機能を発揮できるよう、各地域において疑似症患者の入院病床数の確保・拡大を図るとともに、民間を含めた医療機関ごとの役割分担等の再検討や拡大整備を早急に行う必要がある。